



一般社団法人 **日本LD学会**  
Japan Academy of Learning Disabilities

# 会報 第117号

事務局

〒108-0074 東京都港区高輪3-24-18 高輪エンパイヤビル 8F

URL <https://www.jald.or.jp>



- ・巻頭言：選択する主体を支える
- ・文部科学省 令和3年度予算の概要
- ・厚生労働省における令和3年度の発達障害者支援施策
- ・〈連続講座〉新学習指導要領時代における学びの多様性を生かすための一貫した支援
- ・委員会リレー企画 広報委員会紹介
- ・PATIO ～実践の最前線～



## 選択する主体を支える

兵庫教育大学大学院 特別支援教育専攻 障害科学コース

井澤 信三

「人生は選択の連続である (Life is a series of choices.)」ということばがあります。私たちは、生きていく日々一刻一刻の中で、常に選択していると考えられます。敢えて「選択」と言う必要のないような、毎日繰り返される選択もたくさんあります。いろんな選択がありますが、ざっと考えても「するか、しないか」「AとBのどちらにするか、それともCにするか」「今するか、後でするかのような5W1Hに関する条件をつけるか」など。

障害のある人、その保護者、その支援者においても、いろいろな選択が求められます。その中には、比較的に大きなイベントについての選択もあります。たとえば「どの仕事にするか (比較的に自由度が高い場合)」「どの学校・学級にするか (選択肢に制限がある場合)」「活動に参加するか/しないか、〇〇だけには参加し、他には参加しない」「方法Aで対応するか/方法Bで対応するか、とりあえず方法Aでうまくいかなかった

ら方法Bで」「学校に行くか/行かないか、いつどこに登校するか」など。

一般的に、選択肢がない、一つしか選択肢がないよりも、複数の選択肢がある中から選ぶことが選択主体の満足感につながるでしょう。そのような選択機会の提供は、その後の取組に対する動機づけを高めることも明らかになっています。ただ、自由すぎる選択には、混乱も起きやすくなります。選択の機会における大切なことは、いくつかの選択肢があることと、その選択肢に関する情報が明確であること (違いがわかること)、選んだ後の結果の見通しの提供 (メリットとデメリット) 等が挙げられるのではないかと思います。また、提示された選択肢以外の選択肢が存在しているかどうかを吟味することも、大切になってくると思います。このようなことに気をつけながら、選択する人 (主体) に付き合っていけるように、人への支援にあたりたいと考えています。